

令和3年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文中学生の部 県知事賞 優秀賞

「 命を守る行動とは 」

鹿児島県 鹿児島市立伊敷台中学校 1年 藤井 香予

今年、7月3日午前10時半頃、静岡県熱海市で、大規模な土石流が発生した。ニュースなどで放送された映像には、黒い土砂が勢いよくたくさん家をなぎ倒していく様子が映し出された。私は、この映像を見て「うそでしょう。」と言葉を失った。私は、「住民の方々の命が無事でありますように。」と祈ることしかできなかった。7月27日現在、死者22名、行方不明者5名となり、土石流の悲惨さを、痛感した。

また、私たちの住んでいる伊敷でも、忘れられない大きな水害がある。それは、鹿児島市内をおそった8・6水害だ。これは、平成5年の8月6日に起きた水害のことで、土砂崩れが各地で発生し、1日最高雨量は、259ミリ、死者48名、行方不明者1名、重軽傷者52名と多くの方々が被災した。私の家も、庭山が崩れるという被害にあった。その時、家にいたおばあちゃんは

「ドーンッ。」

という大きな音に驚き、裏山の様子を見に行くと、土砂が車庫ギリギリまで流れ込んでいたそうだ。長年、住んでいて初めての事で、

「とても、おそろしかった。」

と言っていた。

今では、「急傾斜地崩壊危険箇所」に認定され、土砂崩れ防止の柵が着工された。そのおかげで、安心して生活することができている。

私は、今年、発生した熱海市土石流で大勢の被災者の方々がいらっしゃるということ、また、平成5年に鹿児島市で発生した8・6水害の事を考慮し、今まで以上に日頃から家族と防災対策を強化したいと思う。

例えば、テレビで天気予報をこまめに見たり、海の波の高さや、今までの総雨量を確認する。また、大雨警報や避難指示が発令されたら、できるだけ早めに避難を開始するなど色々な防災対策ができる。しかし、土砂崩れや土石流は、突然発生する可能性もある。その危険性がある場合は、崖に近い部屋で過ごすのではなく、できるだけ安全で丈夫な離れた部屋で待機するように行動するなど、考えて行動することが大切だ。

最近では、地球温暖化による異常気象も問題視されている。地球温暖化と大雨の関係性について調べてみると、大雨の発生数が増加傾向にあるのは、地球温暖化が関係している可能性があるそう。日本の観測結果の分析によると、過去100年において、自然災害につながる可能性のある、日降水量が100ミリ以上、200ミリ以上の降水が発生する日数は増加傾向で、鹿児島市で発生した8・6水害でも、日降水量が200ミリを超えていた。このことから、降水量が増えれば増えるほど、大きな水害につながる可能性があるという事が分かった。また、地球温暖化予測実験では、「日降水量が100ミリ以上などの大雨の発生数が日本の多くの地域で増加する」「6月から9月に現在よりも降水量が増加する」という予測結果が出ている。日本は、集中豪雨や台風が多発する夏期の防災が大きな課題となってくると考えられている。

土石流や崖崩れ、地すべりなどの土砂災害は、大雨だけの影響だけで発生する事ではないと思う。日本は、他の国と比べ、4つのプレートの上に位置しているため、地震が非常に発生しやすい。そのため、大きな地震が発生しても、すぐに行動できるように準備をしていると安心だ。

このような、自然現象は、私たちでは止めることはできない。でも、対策はする事ができる。私たちは、何ができるのかを考え、次につながる事が大切だと私は思う。私が過ごしているこの時も、復興に向け、活動を続けている人たちがいる事を忘れずに、1日1日を感謝して生きていきたい。また、命を守る行動を、1人1人が理解して自然と動いていけるように、今一度、家族とも話し合っていきたい。